

2020. 10. 28 <計1枚>

京都大学記者クラブ加盟社 各位

立命館大学広報課

国際平和ミュージアム 第131回ミニ企画展示
「Us ～学生が見たロヒンギャ～」開催
会期：2020年11月2日（月）～11月26日（木）

国際平和ミュージアムは、下記の日程で第131回ミニ企画展示「Us ～学生が見たロヒンギャ～」を開催いたします。

「今世紀最大の人道危機」とも言われる、ミャンマー西部・ラカイン州に住むイスラム教徒・ロヒンギャの問題。ミャンマー政府は、ロヒンギャをベンガル地域からの「不法移民」とみなし、多くのロヒンギャに国籍を付与していません。2017年8月に起こった、原住民である仏教徒・ラカイン族との争いでは、多くのロヒンギャが迫害を受け、およそ70万人が隣国・バングラデシュに逃れました。ミャンマー国境では、今でも約100万人のロヒンギャが難民キャンプに暮らし、国際援助で命を繋いでいます。中には庇護を求めて日本に来るロヒンギャもいます。

「難民問題は遠い国の出来事ではない」、「難民はかわいそうな人々か」、そうした思いから、PACO-Shed Light On Injustice(※)に所属する学生記者2人(うち1人が立命館大学生)が2年をかけて、4か国(ミャンマー、バングラデシュ、マレーシア、日本)を取材しました。本展では、学生記者の目からみたロヒンギャ問題の「今」を、写真とパネルで伝えます。

※PACO-Shed Light On Injustice・・・ジャーナリスト志望の若者が集い、デジタルネイティブの感覚や発想をいかし、従来のメディアにないダイナミックな報道を目指す団体

記

会 期：2020年11月2日(月)～26日(木)

会 場：立命館大学国際平和ミュージアム 2階 常設展示室内

開館時間：10:00～12:00 (入館は11:30まで)

13:00～15:00 (入館は14:30まで)

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から当面短縮開館といたします。

※消毒等の実施のため、12:00～13:00は一旦退館いただきます。

当日の再入館時の見学資料費はいただきません。

休 館 日：日曜日、11/4(水)、11/24(火)

見学資料費：大人400円、中高生300円、小学生200円

※11/3(火)文化の日、11/14(土)関西文化の日は無料公開

主 催：PACO-Shed Light On Injustice

共 催：立命館大学国際平和ミュージアム

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、本展を急遽中止させていただく可能性がございます。詳細は下記ホームページや当ミュージアムTwitterでご確認をお願いいたします。

※入館にあたっては注意事項がございます。詳細はホームページでご確認ください。



「難民キャンプ・処刑場からの
生還＝バングラデシュ」

以上

●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学国際平和ミュージアム 担当:阿野

TEL. 075-465-8151 <https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/>